

ブックマーク共有による 情報検索・興味開拓支援に関する研究

能登研究室

藤原義信 (200046281)

1 はじめに

近年、コンピュータを取り巻くネットワーク技術は目覚ましい発展を遂げ、急速な勢いで発展しつつある。これにより、我々はネットワークを通して、速やかに情報にアクセスする事が可能になった。しかしながら、情報は急激な増加を続けている。World Wide Web (以下 WWW) 上での文書検索では、不要な情報も多く流通している為、検索エンジンを用いても検索を行う際に更なる絞込みが要求され、ユーザの負担となっている。

本研究では、ブックマーク共有システムを提案する。このシステムにより、情報検索において問題となっている、多くの時間が費やされる事によるユーザ負担の軽減や、不要な情報の削減を支援する事が期待できる。

2 情報フィルタリング

情報フィルタリング (information filtering) という考え方は新しい概念ではなく、電子化された情報だけがその対象ではない。我々は情報のフィルタリングを日常的に行なっている。例えば、我々が雑誌を購入する場合に、自分の必要としている、また興味のある情報をできるだけ多く含み、無駄な情報なるべく含まれていない雑誌を探そうとする。このようにして購入した雑誌でも記事によっては読む必要のないものもある。以上のように、人々が何らかの情報を獲得する際には常に無意識のうちにフィルタリングを行なっている。

情報フィルタリングの1つに、協調的情報フィルタリングがある。これは、ユーザ同士が協力し合いながら自分の読んだ情報の印象を記録していく事により、他のユーザと情報をフィルタリングし合う事である。本研究は、この協調的情報フィルタリングの考えをもとにしている。

3 提案システム

3.1 ブックマーク

本研究では、有用な情報を得ようとする為に、ブックマーク (bookmark) を用いる。ブックマークはユーザの興味を反映し、WWW 上の文書中で有用だと思われる文書のみをユーザがフィルタリングにより抽出した結果である。ブックマークを共有する事で、フィルタリングされた有用な情報を、既存の検索エンジンより容易に得る事が期待できる。

3.2 システム構成

本システムは、興味のある程度共通している小規模なグループに適用することを前提としている。多数のユーザで共有すれば、問題となっている不必要な情報もユーザの増加に伴い増加する為、例えばブックマークであっても、検索エンジンで検索する場合とさほど変化は無くなってしまふ。

システム構成の概略図を図1に示す。ユーザは推薦ブックマークをブックマーク共有データベースに登録する。各々のユーザは共有されたデータベース

からブックマークを閲覧又は、検索する事が可能である。ブックマークによりフィルタリングされた共有情報を閲覧する事で、新しい興味の開拓が期待され、求めたい情報に関するキーワード検索を行なう事で、ユーザの情報検索を支援する事が可能となる。

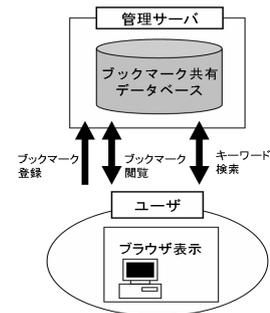


図 1: 提案システムの概略図

3.3 特徴

ブックマークの共有という研究は少なからずされているが、本研究の特徴は、共有データベースを持つことにより共有する Web ページ全体を閲覧できるという点にある。共有ブックマークの閲覧が可能であるので、通常のネットサーフィンより、新しい興味の開拓を容易に行なう事が可能であると考えられる。

4 考察

本システムは、ブックマークを共有する事で情報検索支援および新しい興味の開拓支援を行なう。評価方法として、複数人の被験者を用意し、キーワードにより得られた Web ページがユーザの意図に反映しているか、閲覧した Web ページが、ユーザの新しい興味の開拓に貢献するか実験を行った。共有ブックマーク登録されていない情報の中にも有用な情報がある場合もあり、本システムのみでは全ての情報を網羅出来ないという問題点がある事がわかった。本システムは通常我々が使用している検索エンジンよりは、ブックマークを用いている事で有用な情報を得る事が可能となるが、あくまで情報検索の一つの手法という使用法が好ましい。

5 おわりに

本システムは、小規模グループ内でブックマークを共有する事により、検索エンジンがユーザの必要としない Web ページを多数表示してしまうのと異なり、少数ではあるが、ブックマークによりフィルタリングされた情報をユーザに提供する事ができる。しかしながら本システムは、共有するブックマークをユーザ自身が登録を行なわなければならない。共有データベースへのブックマーク登録をより容易に行なう事が出来なければ、実用性は薄いと考える。今回は技術的な点で、ユーザ自身が登録するという形を採用したが、今後の課題としては、ブックマーク登録の際のユーザの手間を軽減を考えたシステムの作成が挙げられる。